

瑞雲

ずいぶん

第86号 平成20年5月18日

瑞雲：めでたいしるしの雲の意

直方鉄工青年会

第44代会長 黒岩義泰

■平成20年度スローガン

温故応変 ～次世代へ

第44代直方鉄工青年会会長を務めさせて頂くことになり、まずはこのような貴重な機会を与えて頂いた会員の皆様に感謝を申し上げますと共に、微力ながらも1年間を後悔する事なく全力で活動邁進したいと思います。

また、私どもの活動にご支援頂いております諸先輩を始め関係諸団体・友好団体の皆様には平素よりお世話になり深く感謝申し上げます。

さて、本年度直方鉄工青年会のスローガンとして「温故応変」という言葉を上げさせて頂きました。これは、温故知新【古きを温ね、新しきを知る。経験のない新しい事を始めるにも過去を、十分に学ぶ事から知恵を得よう】という言葉と、臨機応変【時と場合に応じて、柔軟に適切な対処をする】という言葉。この2つの意味を掛け合わせた造語であります。

この、温故応変という言葉に行き着くまでには、いろいろな言葉や青年会に対する思いが頭の中に消えては浮かび、浮かんでは消えていきました。そして、その経過の中で出てきた思いが、「この歴史ある会で歴代会長の後を引き継ぎ、更に活性化させ魅力ある会に導いて行きたい」という思いでした。

私自身、歴史や過去を学ぶ事で新しい発想を得る事が出来るという前提のもと、今という時代に立ち向かうために、よりよく変化していく事が出来ると考えています。

変化の激しい今、時代の流れや我々個人がおかれてる立場と共に、青年会活動のあり方も変化していくというのは自然の事ではないでしょうか。それならば、時代の変化に応じて、その時最もあるべき姿は何かを会員全員



で話し合い、今まで築き上げられた歴史を汚す事なく、変化の必要な事は変えていかなければならないと思います。その際に指標となるのは、やはり伝統や諸先輩の経験と知恵を学ぶ事ではないでしょうか。

学ぶ事により会員が切磋琢磨し一丸となり今後の青年会が更に活性化し、魅力ある会になっていくと思いません。

そして、これらの気持ちを言い表す言葉として「温故応変」という言葉を選ぶことにしました。また、1年間会長として青年会の新しい歴史を築いていきたいという思いと、古きを温(たず)ねることにより今後の青年会が50年・100年と歴史を刻んでいくための基礎の一部になればと、願いをこめまして「～次世代へ」という言葉をサブタイトルとさせて頂きました。

数年事業でありますものづくり活動の一つとして、昨年度はクリーンエナジーカーにソーラーパネルを装備して走行、停止させる予定でしたが色々な問題点が見つかり残念ながら完成しませんでした。今年度もこの計画を引継ぎ、問題点を柔軟に適切な対処を行って完成に向けて活動を行っていきたく思います。しかし完成させる事も大事ですが、完成するまで試行錯誤し会員が一丸となって造り上げる事が大事だと思います。そして、ものづくりの活動だけでなく、青年会の活動においても、会員同士が親睦を深め青年会が更に活性化し、現在、直面しております会員減少の歯止めや、会員拡大へつなげていける様になればと思っております。何卒、皆様の暖かいご支援、また心温まるご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

総務・経営委員会 委員長 **田 淵 元 悟**

この度平成20年度、第44代黒岩義泰会長より任命頂き総務・経営委員長を務めさせて頂きます田淵 元悟と申します。

委員長の役は、昨年と今年で2回目となり総務・経営担当とのことで非常に緊張しております。しかし、心強い副会長・副委員長と委員会メンバーと共に会長を支え青年会を盛り立てて参りたいと思っております。又先日の4月通常総会並びに懇親会では、今年も多くの来賓の方々や特別会員の皆様方に御参加して頂きまして、誠に有難う御座いました。今後も宜しくお願い致します。

さて、我々委員会は4月通常総会懇親会・8月スポーツ事業・12月経営セミナー・2月通常総会の4事業を担当致します。その中でも4月通常総会並びに懇親会では我々の会長をお披露目させて頂き会員全員が、緊張感を持って行なう事業でありこの緊張感が仕事や様々な所で生かされ鍛えさせて頂いていると思っております。今後の他の事業に関しても、気を緩めず行なって参ります。まだまだ、経験が浅いため至らないところも多々ありますが、今後とも御指導御鞭撻を賜ります様、宜しく御願ひ申し上げます。



厚生委員会 委員長 **福 田 雄 介**

この度、平成20年度厚生委員長を務めさせて頂くことになりました、福田雄介と申します。昨年度、第43代石松会長のもと、事務局長を務めさせて頂きました経験を活かし、委員長に任命して頂きました第44代黒岩会長をサポートしてまいる所存です。

さて、本年度の厚生委員会は会員の「親睦」を柱に据え、委員会事業を運営してまいります。「5月スポーツ事業」に始まり、「10月研修旅行」、「3月卒業生を送る夕べ」の3事業を行います。これらの事業により、先に述べました「親睦」を図るとともに、会が「活性化」し、「魅力ある会」になるよう努力してまいります。これらが今後の会員拡大にも繋がると思います。

本年度のスローガン「温故応変」を胸に、委員会メンバー一丸となって頑張っておりますので、今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます、ご挨拶に代えさせて頂きます。



広報・ものづくり委員長 委員長 **林 英 紀**

この度、黒岩会長より委員長職を仰せつかりました。私は入会し昨年までの3年間ものづくり委員会に所属してきました。入会した当時は、なぜクリーンエナジーカーを製作するのだろうか？と疑問を抱き「別に車じゃなくても」と言う思いが在りました。しかし、作業に参加して行く中で他業種の作業のことからも仕事にいかせることもある。と今では「大変だけどおもしろい」と感じられる様になりました。

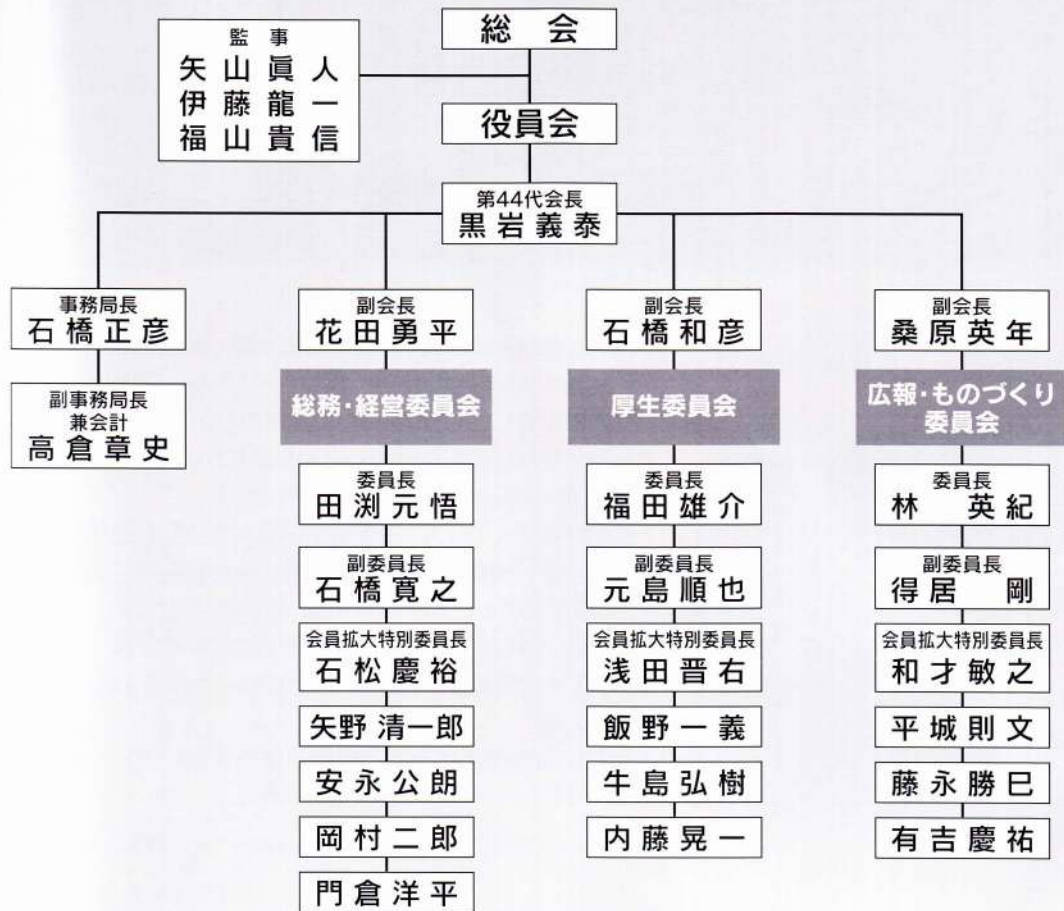
今年度は委員長として活動しワークショップミーティングを盛り立て、昨年達成できなかった「走る・止まる」をかたちに出来るよう努力し会員皆様を楽しめる「ものづくり」になればと思います。

今年1年を通じ多くを学ばせて頂き、黒岩会長の支えのひとつに成れますよう又、会の活性化に貢献できますよう努めさせて頂きますので1年間宜しく御願ひ申し上げます。

最後に瑞雲発行にあたりまして皆様のご協力有難うございました。



直方鉄工青年会 平成20年度組織図



平成20年度 事業計画

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総務・経営委員会	総会 懇親会	例会	例会	例会	例会 スポーツ 事業	例会	例会	例会	例会 経営セミナー 忘年会	例会	例会	例会
厚生委員会		スポーツ 事業					研修 旅行					卒業生を 送る夕べ
広報・ものづくり 委員会		瑞雲 発行				家族 対象	ものづくり 走行会	産業 まつり		特別会員 合同 新年会 瑞雲発行		
事務局			鉄の 芸術	夏祭り							厄払い	

平成20年度4月通常総会・懇親会



木々の青葉も芽生え、心地よい風が吹く季節になりました。
44回目の今年通常総会懇親会に、鉄鋼業界・地域関係者の皆様をお招きし、去る4月25日に開催致しました。
会員それぞれが新たなる思いで迎えるなか、第44代会長黒岩君は、格別の思いで迎えられたと思います。

総会が始まる前より、一人壇上に立ち緊張した面持ちで会長挨拶の最終確認を行っていました。その姿を見ていると身の引き締まる思いと44年目の始まりを感じさせてくれました。そして今年度は「くろいわ丸」と言う船に乗り会員一同オールを手にして前に突き進み次世代になにかを残したいと思えます。

今年度も皆様のご指導ご鞭撻お力添えの程宜しくお願い致します。

新入会員紹介

株式会社八幡鍛造所 岡村 二郎

今年度より直方鉄工青年会に入会させていただくことになりました(株)八幡鍛造所 岡村二郎と申します。

会社は「八幡」と付いてますが、創業時黒崎にあった為で現在は鞍手町の鞍手工業団地内にある従業員7名の零細企業です。フリーの鍛造品を製造しています。

私の自己紹介ですが、年齢は39歳で今年9月には「不惑」になってしまいます。とても「青年」とは言えない歳&ルックスなので、勧誘いただいた際に若干その点が気になりましたが、「鉄」を通じて皆様と親交を深められればこの人脈が今後の財産になると思いい入会を決めました。

活動期間が5年程と短いですが、時間の許す限り積極的に参加して行こうと思います。まだ「会」のことは正直何もわかっておりませんので、先輩会員の皆様には色々とお指導いただければ幸いです。

趣味はゴルフ・と言いたい所ですが、実はあまり好きではありません下手過ぎて良い思い出がないのが原因なのですが、5年後には趣味がゴルフですと言える様に練習も頑張りたいと思います。こちらも機会があれば御指導宜しく御願いたします。

とにかく早く皆様と馴染んで、濃密な5年間にしたいと思っておりますので皆様宜しく御願いたします。



直方鉄工青年会

福岡県直方市大字植木1245-2(ADOX福岡直方鉄工協同組合内)

発行人 直方鉄工青年会 広報・ものづくり委員会

発行責任者 委員長 林 英 紀

印刷 株式会社ワールドプリンティング Tel.0948-25-5557